

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観
建物名称	(仮称)エイルマンション武蔵ヶ丘	階数	地上14F
建設地	熊本市北区武蔵ヶ丘9丁目1631-1	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第一種中高層住居	平均居住人員	293 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場, 集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2012年11月30日
敷地面積	4,157 m ²	作成者	渡邊浩之
建築面積	655 m ²	確認日	2012年12月3日
延床面積	6,740 m ²	確認者	



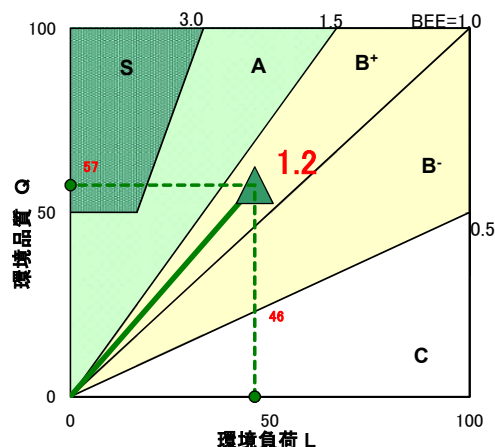
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.2

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

79%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

79

評価点

■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

70.7

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

77.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

97.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

76.5

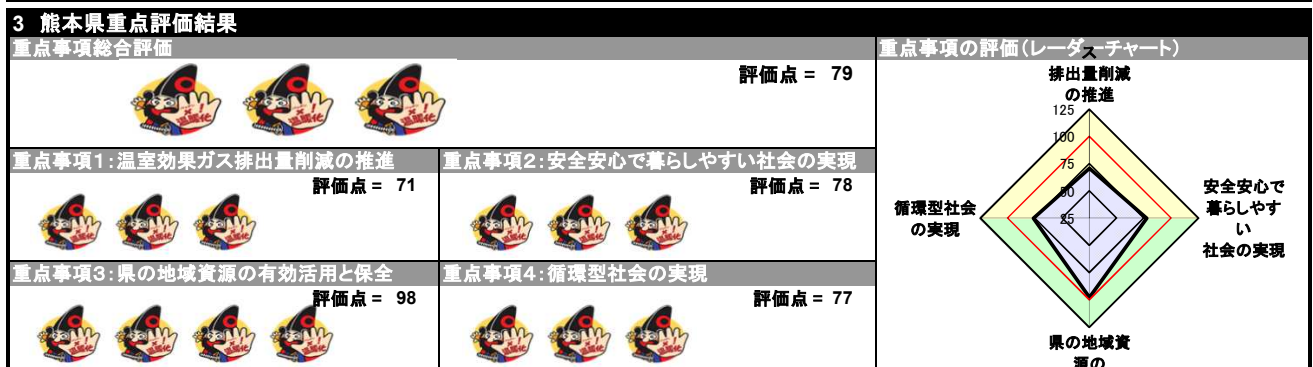
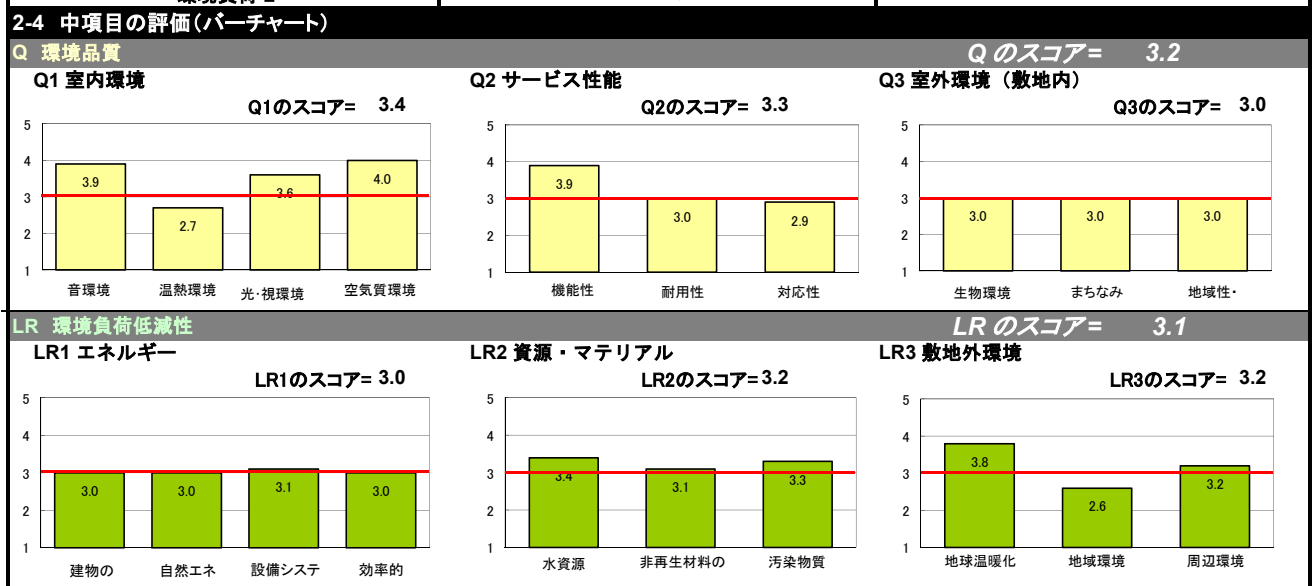
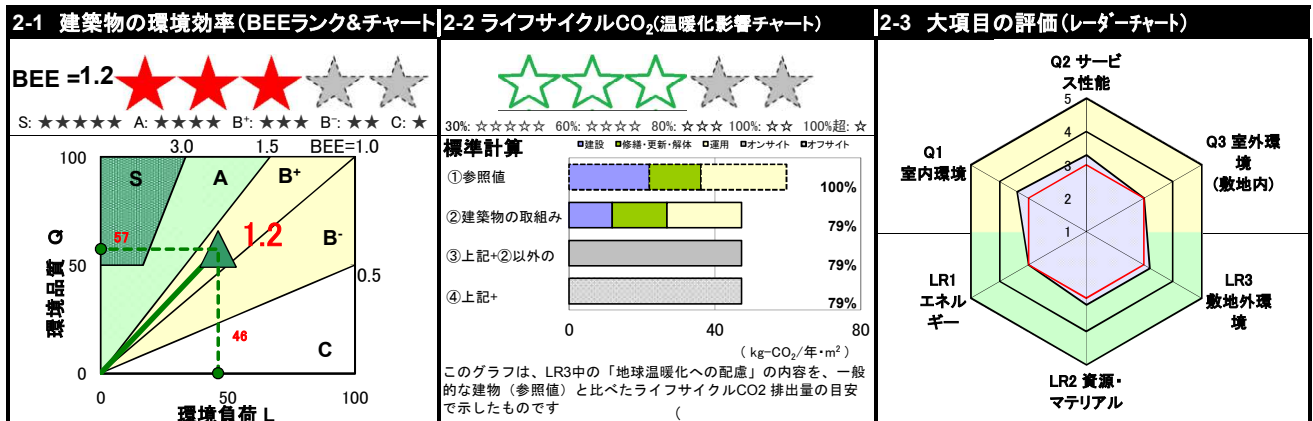
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エイルマンション武蔵ヶ丘	階数	地上14F
建設地	熊本市北区武蔵ヶ丘9丁目1631-1	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第一種中高層住	平均居住人員	293 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2012年11月30日
敷地面積	4,157 m ²	作成者	渡邊浩之
建築面積	655 m ²	確認日	2012年12月3日
延床面積	6,740 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)エイルマンション武蔵ヶ丘

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.39			3.4
1 音環境		3.0	0.15	4.1	1.00	3.9
1.1 騒音		3.0	0.49	3.5	0.50	
1 室内騒音レベル	43dB(A) 寝室	3.0	1.00	4.0	0.50	
2 設備騒音対策		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.49	4.8	0.50	
1 開口部遮音性能	住居部分にT-2サッシを使用	3.0	0.98	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	Dr-55以上(TLD-56)	3.0	0.02	5.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	Lr-40以上	3.0	-	5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	Lr-50以上	3.0	-	4.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.01	3.0	-	
2 温熱環境		1.0	0.35	3.0	1.00	2.7
2.1 室温制御		1.0	0.50	3.0	1.00	
1 室温		1.0	0.62	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能	熱損失係数=3.39、夏期日射取得係数=0.065、	1.0	0.38	3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.0	0.25	3.7	1.00	3.6
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.0	0.35	
1 昼光率	共用部分=3.2%、住居部分=4.4%、	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口	南面に開口部あり	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	昼光利用設備なし	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.35	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	カーテン及び庇で抑制	2.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度	照度100lx以上	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	器具により抑制	3.0	0.25	3.0	0.29	
4 空気質環境		4.1	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.59	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に使用	5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.39	2.3	0.38	
1 換気量	建築基準法を満たす換気量(シックハウス対策を含む)	3.0	0.49	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	0.02	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	空気取り入れ口は汚染源のない方向に設置	3.0	0.49	3.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.01	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.6	0.40	4.0	1.00	3.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	0.02	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	100Mbitのブロードバンドが利用可能	3.0	0.02	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の基準を満たしている	4.0	0.96	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	4.0	0.40	
1 広さ感・景観	住居部分天井高=2,475	3.0	0.02	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.02	-	-	
3 内装計画	評価する取り組みが共用部2項目、住居部4項目、	3.0	0.96	5.0	0.50	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	評価する取り組みが6ポイント	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	評価する取り組みが9ポイント	4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性	建築基準法に定められた耐震性を有する	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能	免震・制震装置を装置を導入していない	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級2	4.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	吹付タイル(25年)	4.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニルクロス貼(10年)	3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ほぼ完全に垂鉛鉄板を使用	3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	屋内給水にVLP、屋内汚水排水、雑排水にVPを使用	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	更新必要間隔15年	3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新							
2.4 信頼性			2.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	評価する取り組みが1つ	1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		1.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		耐震クラスB	3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		評価する取り組みが1つ	3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.5	0.29	2.8	1.00	
3.1 空間のゆとり			3.0	0.02	2.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高＝2.860	3.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重＝1,800N/㎡	3.0	0.02	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	0.96	-	-	
1	空調配管の更新性	構造部材を痛めることなく更新可能	3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく更新可能	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材だけでなく仕上げ材も痛めることなく更新可能	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新可能	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	更新ルートはあるが更新・修繕時に建物機能の維持不可	3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペース無し	3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	
1 生物環境の保全と創出		評価する取り組みが9ポイント	3.0	0.30	-	-	
2 まちなみ・景観への配慮		評価する取り組みが3ポイント	3.0	0.40	-	-	
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	評価する取り組みが2ポイント	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	評価する取り組みが10ポイント	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.1	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	
1 建物の熱負荷抑制		エネルギー対策等級3に相当	3.0	0.38	-	-	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.21	-	-	
2.1	自然エネルギーの直接利用	住戸が外皮2方向に面している	3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	評価する取り組み無し	3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化			3.1	0.40	-	-	
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=26%	4.5	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.02	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	
1.1	節水	節水コマ及び節水型便器を使用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用システム無し	3.0	0.98	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.02	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.63	-	-	
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	敷地内に既存躯体無し	3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	リサイクル材を使用していない	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	桐(針葉樹)を50%以上使用	5.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	評価する取り組みが2ポイント	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.22	-	-	
3.1	有害物質を含まない材料の使用	評価対象とする建材を使用していない	3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP＝0かつGWPが低い断熱材を使用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		2.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	
1 地球温暖化への配慮		換算スコア＝3.1	3.8	0.33	-	-	
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	
2.1	大気汚染防止	現行の排出基準以下	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.6	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	基準を満たしている	3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	評価する取り組みが4ポイント	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	評価する取り組みが3ポイント	3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	規制対象建築物以外	3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	自主的な対策を評価しない	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	日影規制を満たしている	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	評価する取り組みが4ポイント	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	グレアについて特に影響なし	3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

建物の環境品質を充実させ、環境負荷の低減に努めた。

Q1 室内環境

隣戸間の遮音性能の向上、及び断熱性能の確保やシックハウス対策として、F☆☆☆☆の材料を積極的に採用した。

Q2 サービス性能

手摺の設置や、通路床面の段差解消などバリアフリーに配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

植栽帯を積極的に設けた。

LR1 エネルギー

共用部分の照明設備については、タイムスケジュール制御、明るさ感知による自動点滅制御を採用した。

LR2 資源・マテリアル

設備器具において、節水器具の採用や、建築材料においては有害物質を含まない材料を採用した。

LR3 敷地外環境

敷地内に植栽帯の確保や、駐車場に緑化ブロックの採用等、緑を充実させる事に配慮した。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)エイルマンション武蔵ヶ丘

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		78.6
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				70.7	0.40	28.28
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.01			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.01			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.14			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				77.5	0.20	15.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				97.5	0.20	19.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数